

## 郷土資料館だより

Vol.30. No.2

2007.11.1

## 企画展 「楽寿園の名宝」 開催中

●開催期間 平成19年10月28日(日)～平成19年11月30日(金)

豊かな緑に囲まれた楽寿園は、三島駅南口すぐのところにあります。楽寿園は、国指定天然記念物・名勝に指定され、園内にある楽寿館は市指定文化財、「楽寿の間」絵画は県指定文化財になっています。また、かつて楽寿館と共に建てられた梅御殿の「杉戸絵」は市指定文化財になっています。この秋の企画展示として、楽寿園の歴史と三島市民の大切なお宝を紹介しています。



楽寿館「楽寿の間」



龍雲「司馬温公図」



野口幽谷「池中鯉魚図」



滝和亭「千羽千鳥図」

## 楽寿園と人

現在の三島市立公園「楽寿園」は、かつては神社や寺院が点在する聖地でした。明治23年(1890)小松宮家の所有となり、その後明治44年(1911)李王家の所有に代わります。昭和2年(1927)緒明家の所有となり、昭和27年(1952)に市民待望の三島市立公園として開園しました。代々の所有者を紹介します。

## 明治23年(1890)小松宮家

小松宮家は、伏見宮邦家親王の第八王子、彰仁によって創立されましたが、王子を儲けなかったため、一代で廃絶しました。小松宮彰仁親王は弘化3年(1846)誕生。安政5年京都仁和寺第三十世の門跡に就任しますが、王政復古に際し還俗し、明治天皇の側近として軍の要職を歴任します。明治10年博愛社(日本赤十字社の前身)の初代総長、後に総裁となります。明治36年(1903)58歳で薨去されます。

## 明治44年(1911)李王家

李王垠殿下(李垠)は、明治30年(1897)李氏朝鮮第26代高宗皇帝の第四王子として誕生し、明治40年(1907)、10歳の時に日本留学の名目で来日します。日本の皇族梨本宮方子姫(李方子)と大正9年(1920)に結婚します。昭和38年(1963)11月22日夫婦ともに韓国へ渡り、韓国にて逝去されます。



## 昭和2年(1927) 緒明家

緒明圭造は、明治16年(1883) 緒明造船所を設立し財を築いた菊三郎の婿になります。大正末期に李王家別邸を売却する計画が持ち上がり、三島町に購入の打診がありますが購入することができません。圭造は、東海の名園が消えてしまうのを惜しみ、百万円で一括購入しました。

現在の楽寿園がほぼ当時の姿で残されているのも、圭造の決断によるところが大きいといえます。

## 昭和27年(1952) 三島市

圭造の息子太郎と三島市の交渉が成立し、昭和27年三島市の所有となりました。同年7月15日、数百人の来賓を招き、開園式が盛大に行なわれました。16、17日は無料開放され、待ちかねた市民が相次いで入園、両日を通じて入園者は約26,000人にも及びました。

「楽寿園」という名称については、旧邸宅内「楽寿の間」にちなんで命名されたものです。昭和27年6月臨時市議会において、市長から「楽寿園」の名称が提案された際、議員からは他の案も出されますが、原案どおり「楽寿園」が可決されました。



梅御殿外観

## 楽寿園の美

## I 楽寿館の美

園内にある「楽寿館」は、小松宮彰仁親王によって建てられました。京風建築のすぐれた手法を現在に伝える明治期の代表的な建造物で、吟味された最高の素材とすぐれた建築技術を随所に見ることができます。内部は、楽寿の間・柏葉の間・不老の間・ホールの4部屋からなり、建具や金物にも趣向が凝らされています。装飾絵画はいずれも明治20年代の日本画壇の第一人者が描いたものです。

部屋のひとつである「楽寿の間」の装飾絵画(天袋・地袋・襖・障子の腰襖・格天井・杉板戸)は、昭和55年(1986)11月28日に静岡県の文化財に指定されました。楽寿の間は、宮家の謁見の間で、主室(15畳)と次の間(15畳)からなっています。次の間の襖「池中鯉魚図」と、主室・次の間の格天井「花卉図160面」は野口幽谷によって描かれています。野口幽谷は、文政10年(1827)東京の生まれで、24、25歳の頃椿椿山に学び、花鳥画を得意とした幕末明治の巨匠です。

## II 梅御殿の美 一市指定文化財の杉戸絵一

「梅御殿」は楽寿館などとともに築造された木造2階建の建物です。池に臨む主座敷の床柱に太い梅の木が使われていることからこの名で呼ばれるようになりました。梅御殿にあった杉戸絵(6点10面)は、平成3年3月4日、三島市指定文化財になりました。

梅御殿の装飾絵画は、湯川松堂(明治元年和歌山生まれ)、海外天年(生年不詳京都生まれ)、龍雲、直泉の4名によって描かれました。この4人は、楽寿の間の画家に挙げられる京都画壇の中心人物、幸野樗嶺や望月玉泉と関係の深い鈴木百年の門人です。



湯川松堂「郭子儀図」



つねまさちくぶしじまもうで「經正竹生鳥詣図」

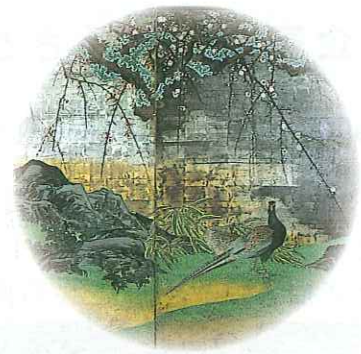


湯川松堂「足柄山(新羅三郎吹笙)図」



### Ⅲ 梅御殿の美 ー緒明家所蔵の屏風ー

梅御殿を所有していた緒明家には、お正月に必ず玄関に飾るという屏風があります。落款も印章もなく、作者は明らかではありません。屏風の画面上方からは豪快に垂れ下がる紅梅の枝が描かれ、青くみずみずしい苔が光っています。その枝振りから、梅の幹こそ見えませんが、かなりの老木であるらしいことが推測できます。庭の主のような梅の木に違いありません。そのひとときわ見事な枝振りの花の下には、1羽の雉が羽を休め、こちらを眺めています。その姿は、部屋にいる者を射すくめるようにも見えます。どの方向から見ても雉に睨まれているような気がするので、「八方睨みの雉」と呼ばれています。この屏風は、元々梅の間を装飾していた襖絵と思われます。



「梅に雉図 (八方睨みの雉)」



## 富士・沼津・三島三市博物館共同企画展

「遙かなる東海道～富士・沼津・三島の記録～」

●開催期間 平成19年12月9日(日)～平成20年2月24日(日)



展示風景 (沼津会場)

東海道は、江戸と日本各地を結ぶ主要街道の一つです。街道沿いには宿場が設けられ、経済活動や文化交流の拠点となっていました。三島もその一つです。

富士・沼津・三島の博物館では、各市にある東海道や宿場を語る文化財、静岡県内の街道名物を集め展示し、その魅力に迫ります。この機会に、より多くの方に東海道の面白さや楽しみ方を発見していただきたいと思います。

なお、今年、江戸時代に日韓の平和の礎となった朝鮮通信使が初めて日本を訪れ、東海道を旅してから400年目に当たります。朝鮮通信使400周年記念事業推進委員会の協力のもと、通信使についてさまざまな資料から紹介します。



展示風景 (沼津会場)



朝鮮通信使再現行列



7月末から一週間、博物館実習に来ていた大学生の白井朋子さんと下山武洋さんに「学芸員の一品」を選び展示してもらいました。

### 山中城跡から発見された線刻磔

山中城跡から発見された戦国時代の「十六武蔵」という遊戯に使われた石の盤面です。「十六武蔵」は、平安時代中頃までに中国から伝わりました。初めは博打として遊ばれていましたが、江戸時代頃には、家庭



線刻磔

でも遊ばれるようになりました。明治期を代表する文豪、樋口一葉の『たけくらべ』や夏目漱石の『三四郎』の中にも「十六武蔵」の名が登場します。1駒対16駒で戦われ、16駒が1駒を追い込み動けなくするというゲームです。これに似た外国のゲームに、「キツネとガチョウ」というものもあります。

※線刻磔…細い線で人物や動物などが描かれた石。





## 企画展 「ふるさとの人物」 報告

●開催期間 平成19年7月15日(日)～平成19年9月24日(月・祝)

今回の企画展では、三島市内に説明板を設置してある人物、  
滝之本連水、五所平之助、平井源太郎、世古六太夫、並河五一、  
原守拙・呼我、花島兵右衛門・轍吉、箕田寿平、秋山富南、福  
井雪水について紹介しました。夏



休み中には、家族で来館する方が多く、人物や展示物について親子で会話しながら見学する姿が見られました。『五畿内志』や『豆州志稿』のほか、昔の映画のポスターや農兵節の絵など色鮮やかな資料なども見ていただくことができました。展示は終了しましたが、三島の発展に際し大きな功績を残した方々ですので、是非一度、説明板を訪ねてみてください。

## ふるさと講座 「ふるさとの人物ゆかりの地を訪ねて」 報告

●日時 平成19年7月27日(金) 9:00～16:00 参加者 14名

●講師 迫田信行氏 (運営協議会委員長)

企画展「ふるさとの人物」に合わせて、ふるさとの人物の説明板が設置されている市内10ヶ所を訪ね歩きました。開催当日は、梅雨明けが発表され、とても暑い一日となりました。

説明板の設置場所は、お寺が多く、「お寺巡り」となりましたが、普段、説明板だけを巡ることはないので、一度に三島の偉人の業績を見ることができるよい機会となりました。また、途中郷土資料館で企画展も見学し、学芸員がギャラリートークを行いました。ゆかりの地と資料をあわせて見ることができ、理解をよりいっそう深めることができました。参加者からは、「暑い中でも面白かった」との感想をたくさんいただきました。



五所平之助氏 説明板



世古六太夫氏 説明板

### 《説明板廻り順》

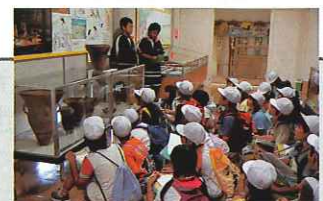
滝之本連水 (伊豆佐野) → 五所平之助 (大宮町) → 平井源太郎 (一番町) → 世古六太夫 (芝本町) → 並河五一 (泉町) → 吉原守拙・呼我 (加屋町) → 花島兵右衛門・轍吉 (南二日町) → 箕田寿平 (青木) → 秋山富南 (函南町) → 福井雪水 (日の出町)

### 中学生から小学生へメッセージ

「ゆめワーク三島」で、北上中学校2年生が郷土資料館に2日間職業体験に来ました。実習中、生徒さんには、社会科見学で来館した佐野小学校4年生に「昔の道具」について説明してもらいました。生徒さんたちは、短い時間のなかで資料について詳しく調べ、わかりやすく説明してくれました。小学生も真剣に説明を聞き質問をしていました。



中学生は教える立場から、小学生は先輩から、お互いに普段できない新鮮な体験ができ勉強になったと思います。





## 郷土教室 「紙すき体験～三極からハガキを作ってみよう～」 報告

- 日時 平成19年8月3日(金) 8:50～14:30 参加者 14名
- 講師 富士市立博物館職員

夏休み、製紙工場の町富士へ行き、富士市立博物館において紙すきを行い、次に、館内と民俗資料館を見学しました。



民俗資料館見学

紙の原料のひとつである三極からは丈夫な紙ができるため、紙幣の材料として使用されています。今回は、三極だけでなく、



パルプの繊維を観察

木材から繊維を効率よく抽出してつくられるパルプを使って紙を漉き、色や感触、丈夫さの違いを比べることができました。

紙すきは、漉舟に簀桁をまっすぐに入れ、繊維が水をたくさん含んでいるうちに縦横にふるいます。次に、子どもたちの関心をもっとも集めた機械「特製脱水機」で一気に水分を吸い取ります。その後アイロンをかけ、専用乾燥機で乾かして完成です。

毎日たくさん使っている紙ですが、紙すき体験を通してその歴史と作り方を楽しく学ぶことができました。



簀桁で漉く



落ち葉で模様をつける



特製脱水機で脱水



乾かす

## ふるさと講座 「富士山麓水伝説めぐり」 報告

- 日時 9月21日(金) 9:00～17:00 参加者25名
- 講師 富士宮市観光ガイドボランティア



陣馬の滝

(当日のコース)

陣馬の滝(富士宮市猪之頭) → 田貫湖 → 白糸の滝周辺(音止めの滝、白糸の滝、三極記念碑、おびん水、曾我の隠れ岩、工藤祐経の墓) → 富士山本宮浅間大社湧玉池

最初の陣馬の滝は、富士山麓で巻狩を催した源頼朝が、日が暮れて滝の近くに一夜の陣を敷いたので、陣馬の滝というようになったと伝えられています。当日は天候にも恵まれ、滝の音を聞きながら伝説を聞くという恵まれた環境でした。

三島市も富士宮市も富士山の地下水が湧き出る町です。しかし、残念ながら三島は湧水量が減少し、ここ数年満々と水を湛えた小浜池も見られない状況です。富士宮の湧水も量が減っているとは言いますが、街中のいたるところからこんこんと水が湧いていました。知識豊富なボランティアの方々には富士宮の美しさを余すところなく案内していただき、参加者の方々にも喜んでいただきました。富士宮も三島も、富士山の恵みによって豊かに暮らしていただくことができましたことを感じました。



富士山本宮浅間大社



## 郷土資料館運営協議会委員研修視察報告

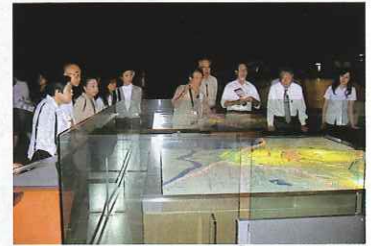
- 日時 平成19年9月28日(金)
- 視察先 川崎市立日本民家園 江戸東京博物

川崎市立日本民家園は、古民家を永く将来に残すことを目的に、東日本の代表的な民家を野外に移築し展示しています。民家は、建てられた当初の形に戻され、当時の様子がわかるようになっています。藁細工や竹細工の実演や様々な催しも行っています。江戸東京博物館は、江戸東京の歴史を守ることにより、未来の東京を考えるための博物館として開館しました。常設展示室をはじめ企画展示室、学習施設が充実しています。常設展だけでも3つに分かれており、目や耳、手で触れながら見学できます。

どちらの館もととても広く、見応えがありました。展示には臨場感があり、体験できるスペースもたくさんあるので何度でも楽しめる施設です。



川崎市立日本民家園



江戸東京博物館

### 刊行案内 企画展図録「楽寿園の名宝」

企画展に合わせ図録を発行します。内容は、楽寿園の歴史、関係資料、展示作品の紹介などが盛り込まれています。どうぞこの機会にお求め下さい。  
頒布価格(予定)700円 郷土資料館にて10月28日から販売



## 寄贈資料紹介

平成19年7月から9月に、次の方々からたくさんのご寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございます。(50音順・敬称略)

鷺見 牧子	三島市	マント	1点	大沼 俱夫	三島市	密着焼付け器	1点
		帽子	2点			二眼レフカメラ	1点
海野 はつ	三島市	硯箱(李王賞)	1点	高島マキエ	三島市	「小浜池周辺の井戸・湧水の変化」資料	1式
				竹澤 秀忠	三島市	手ぬぐい	1点



マント



硯箱

### 編集後記

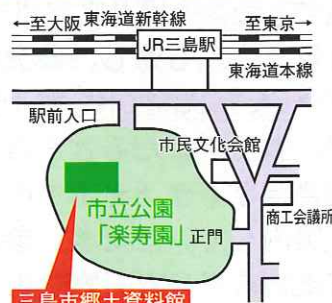
10月初めに郷土資料館のくん蒸を行いました。くん蒸期間中は、休館させていただき皆様にはご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。資料をいつまでも皆様に見ていただけるように、害虫を駆除し、大切に保存していきたいと思ひます。

### 利用案内

- 休館日  
毎週月曜日  
(祝日の時は翌日)  
12月27日~1日2日

- 開館時間  
午前9時~午後5時  
(4/1~10/31)  
午前9時~午後4時30分  
(11/1~3/31)

- 入館無料  
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



- 三島駅(南口)から徒歩5分。  
市立公園楽寿園内

### 郷土資料館だより vol.30 No.2 (第89号)

発行日 平成19年(2007)11月1日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL: <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>  
発行 三島市教育委員会